

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：12608

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16746

研究課題名（和文）ロシア構成主義の国際的展開ーリシツキーを中心に

研究課題名（英文）International development of Russian Constructivism: around El Lissitzky

研究代表者

河村 彩 (kawamura, aya)

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・助教

研究者番号：20580707

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：リシツキーは論文の多くをドイツ語で執筆しており、これまでドイツおよびアメリカを中心に多くの研究が行われている。本課題ではロシア語で執筆、出版されたリシツキーの論文や、ロシアで出版されたグラフィックデザインを調査し、リシツキーの活動を新しい局面から考察した。また、リシツキーが学生時代を過ごしたダルムシュタットや、彼が展覧会を行ったハノーファーの美術館で調査を行い、リシツキーの西側のダダイストとの交流を明らかにした。とりわけ、モスクワのイズスタト（図解統計出版局）の設立に尽力した経済学者のオットー・ノイラートとの交流を明らかにし、リシツキーがデザインを手がけたイズスタトの出版物の分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

美術研究の分野ではあまり知られていないリシツキーのロシアでの活動や制作物の総合的な研究を行い、その成果を著書『ロシア構成主義』（共和国、2019年）の一部で発表した。とりわけ、リシツキーとの交流がきっかけとなってロシアを訪問したオットー・ノイラートのモスクワでの活動とその影響は、現在までほとんど明らかにされておらず、ロシア国立図書館でのイズスタットの出版物（リシツキーも多くのデザインを手がけている）の網羅的な調査は、世界的に見ても極めて珍しく、価値の高い研究といえる。

研究成果の概要（英文）：Lissitzky wrote many articles in German, and studies on him were lead in German and the United States so far. In this project, researching his articles written in Russian and his graphic designs made in SSSR, I revealed the new phase of his works. I conducted my research in Darmstad, where he studied, and the museum in Hannover, where he organized the exposition. In these researches, I revealed the connection between Lissitzky and Dadaist in German. Especially, I revealed the connection between Lisstzky and Otto Neurat, an economist who established IZOSTAT (the publisher of Graphic Statistics) in Moscow, and did close analysis on albums published by IZOSTAT.

研究分野：美術史

キーワード：リシツキー ノイラート 構成主義 イズスタト ダダイズム

## 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまでロシア構成主義の研究を継続して行っており、リシツキーに関してもすでに2年ほど調査を行い、展覧会場の設計とブックデザインに関する研究結果を2015年国際中東欧研究者会議(ICCEES)等にて発表している。これらの調査を通して、彼がドイツのダダリスト、オランダの造形芸術グループ「デ・ステイル」、そしてハンガリーやチェコ、ポーランド出身の芸術家たちと親交を結び、時に協力しながら展覧会の設営や雑誌の制作、国際芸術会議の開催などに関わったことが明らかになった。

ロシア本国の構成主義の活動と比較すると、構成主義者たちは工場での大量生産や新しい技術の導入などを目指す傾向があるのに対し、リシツキーは空間や人間、あるいは事物と人間など、造形と人間の関係を問題にしていることが分かった。おそらくこれは西側での展示の経験と芸術家たちとの交流が影響しているものと推測された。

## 2. 研究の目的

リシツキーに関してはこれまでドイツおよびアメリカを中心に多くの研究が行われている。リシツキーは論文の多くをドイツ語で執筆しており、それらは英語にも訳されている。このために現在リシツキーに関する研究の多くはドイツ語で書かれた彼のテキストに依拠して行われている。

しかしリシツキーはロシア本国でも盛んな活動をおこなっており、『現代建築』や『アスノヴァ通信』などのロシアの雑誌に寄稿すると同時に、それらのブックデザインにも関わっている。さらに、近年『人生の映画』と題する6巻の作品集がロシアで出版され、そこにはアーカイヴにおさめられたリシツキーの論文や、彼の公演の記録などが収録されている。本研究の目的はこれらのロシア語で執筆、出版されたリシツキーの資料を元に、彼の活動を新しい局面から考察することである。

具体的には、リシツキーがロシア構成主義を西ヨーロッパに紹介する重要な役割を担っていたとみなし、当時の雑誌を参照しながらリシツキーの国内外での活動を考察し、他のロシア構成主義の作家とは異なった特色を明らかにする。またリシツキーを介した構成主義の国際的広がりおよび構成主義を介した国際的な芸術家たちのネットワークを明らかにする。

本課題ではエリ・リシツキーの活動を中心的に考察することで、1920年代に興隆したロシア構成主義が西ヨーロッパにおいてどのように紹介され、西側の芸術家たちとロシアの芸術家との関係がどのように築かれたのかを明らかにする。またリシツキーの制作にはソヴィエト本国の構成主義とは異なった特色が見られるが、西側の芸術家や思想家たちとの交流がリシツキーにどのような影響を及ぼしたのか明らかにする。リシツキーを中心にすることで、従来のダダイズムおよび中東欧モダニズムの研究の枠組みで見過ごされてきた、ロシアを含めた戦間期ヨーロッパの芸術家たちの動向を明らかにするのがこの研究の目的である。

## 3. 研究の方法

国内外の図書館や美術館付属の図書館で関連する先行研究の調査を行う。ロシア国立図書館においては、20世紀初頭の書籍や雑誌の資料調査、リシツキーや構成主義者らが手がけ、国立出版局から1930年代に出版されたアルバムの調査を行う。また、モスクワ現代美術館、国立トレチヤコフ美術館などでの構成主義の作品の調査を行う。リシツキーが活動したドイツの各都市の美術館や、関連する場所で現地調査を行う。リシツキーが初期に活動し、マレーヴィチらによるアヴァンギャルド運動の中心地となったベラルーシのヴィテプスクを訪問し、美術館や資料館、関連する施設で調査を行う。

収集した資料および先行研究を参照して、リシツキーやその周辺の構成主義者たちおよび交流のあったヨーロッパの芸術家たちの活動を考察し、学会や研究会での口頭発表、日本語および外国語での論文執筆、書籍、翻訳などの形で研究成果を公開する。

## 4. 研究成果

2016年度はロシア国内外で刊行されたリシツキーについての先行研究の調査を行った。2月にはモスクワに2週間ほど滞在し、トレチヤコフ美術館およびマルチメディアアートセンターでの構成主義に関する特別展を中心に資料収集を行った。これらの先行研究および資料調査を踏まえて、"Revolutionary Planes: Books and Exhibition Rooms by El Lissitzky"と題する論文を執筆し、論文集『革命の旗の元でのロシア文化』に掲載した。

また、ロシア構成主義についての単著(「構成主義—生活と造形の組織学」)のための調査と執筆をすすめた。リシツキーが設計した合理化された共同住宅および公共交通手段のイ

ンテリアデザイン(第3章)、「プロウン・ルーム」「抽象の部屋」「映画・写真」展などの展覧会場の設計と、『諸芸術主義』『MERTZ』等のブックデザイン(第5章)、『建設のソ連邦』等の写真アルバム(第6章)に関して調査をすすめ、草稿を執筆した。

また、2月のモスクワ滞在期間にはロシア国立図書館でも調査を行い、1930年代にリシツキーがデザインした数々のフォトアルバムや記念本、グラフィック雑誌等の詳細な調査を行った。この滞在での調査の結果、とりわけソヴィエトのグラフィック・デザインにおけるアイソタイプ(ウィーン・メソッド)の導入と、アルバムのデザイン技法に関してかなりの知見が得られた。

2017年度は9月にラトヴィアおよびモスクワに滞在してロシア構成主義に関する現地調査をおこなった。旧ソヴィエト領ラトヴィアのリガ国立美術館では、ラトヴィア出身のデザイナー、グスタフ・クルツィスによるポスターのエスキスを調査し、ロシア構成主義のモンタージュ技法を解明するための貴重なリサーチを行うことができた。またモスクワのトレチャコフ美術館、モスクワ市近代美術館では構成主義作品の調査を行った。国立レーニン図書館では「イゾスタト」から出版されたものを中心に、1930年代のアルバムおよび書籍の調査を行った。この調査により、リシツキーおよびオーストリア出身のオットー・ノイラートが携わった、ソヴィエトにおけるアイソタイプの展開を解明する手がかりを得た。

また11月には再度モスクワに渡航し、革命100周年にあわせたリシツキーの大規模な展覧会(新トレチャコフ美術館、ユダヤ美術館の二会場での開催)において調査を行った。この調査では、初期のユダヤルネサンス期の作品や、「プロウン」の作品およびエスキスなど、これまであまり公開されてこなかった貴重な作品を目にすることができた。

当該年度は論文 *Revolutionary Planes: Books and Exhibition Rooms by El Lissitzky* (Русская культура под знаком рево люции [革命の旗印の元でのロシア文化]. Валерия Гречко, Су Кван Кима, Сусуму Нонака (под. ред.) Белград: Логос. 2018. С. 217-225) を出版した。

2018年度はリシツキーと交流のあったウィーンの経済学者オットー・ノイラートのロシアでの活動に関する調査を継続し、研究成果を発表した。ノイラートは統計を視覚的に表すメソッド「アイソタイプ」を考案した人物であり、1931年にモスクワに滞在してアイソタイプの研究所「イゾスタト」および研究所付属の出版局を設立した。前年度はモスクワの図書館で「イゾスタト」の出版物の調査を行ったが、当該年度はこのとき収集した資料をもとに、リシツキーが手がけた「イゾスタト」の出版物の分析と考察を行った。また、リシツキーが手がけたグラフ雑誌『建設のソ連邦』や公式アルバムの中でもアイソタイプが用いられている部分に注目し、それらの分析と考察を行った。

リシツキーとイゾスタトに関しては、6月から7月にかけてモンゴル国立大学で開催された *East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies* において、「How do Visual Books Represent the Soviet Union?: The Experiment in Graphic Design in the 1930s」というタイトルで口頭発表を行った。また2019年2月には単著『ロシア構成主義 生活と造形の組織学』(共和国)を出版したが、本書の第5章および6章は本課題での調査を踏まえたリシツキーの活動についての考察となっている。

2019年度は8月にドイツとベラルーシで調査を行なった。リシツキーの空間展示の復元を含めた多数の資料を所蔵するハノーファーのシュプレングエル美術館において、リシツキーおよび彼に影響を与えたクルト・シュヴィッターズの調査を行なった。リシツキーが学生時代を過ごしたダルムシュタットでは、芸術家コロニーを中心にドイツ工作連盟の初期の活動の調査を行なった。またベラルーシのヴィテプスクでは、現在では博物館となっている旧美術学校で、リシツキーやマレーヴィチらが結成した芸術グループ、ウノヴィスなど、リシツキーの初期の活動に関して調査を行なった。

これらの調査をもとに、7月に早稲田大学で行われた公開研究会では「絵グラフで見るソ連 イゾスタトによるグラフィック・デザインの冒険」と題し、イゾスタトから出版されたアルバムを考察した。2月に大邱の慶北大学で行われた JSPS 二国間交流事業(「社会変動の時代における文化 変容のダイナミクス: 20-21 世紀の転換期のロシア」研究代表者: 野中進)主催の国際シンポジウムでは、「本のインターメディア性: 1930 リシツキーのデザインによるフォトアルバム」というタイトルで研究発表を行い、リシツキーの後期のグラフィックデザインにおいて、いかにフォトモンタージュや映画のモンタージュを参照した技法が用いられているか明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 河村彩
2. 発表標題 How do Visual Books Represent the Soviet Union?: The Experiment in Graphic Design in the 1930s
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aya Kawamura
2. 発表標題 : 1930-
3. 学会等名 “Dynamics of cultural processes in the periods of social transformations: Russian culture at the turning points of the 20th and 21st centuries” at Kyungpook National University (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 河村彩	4. 発行年 2019年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 301
3. 書名 ロシア構成主義 生活と造形の組織学	

1. 著者名 ( . ) , , ( . )	4. 発行年 2018年
2. 出版社 :	5. 総ページ数 248
3. 書名	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<http://kawamura-aya.wixsite.com/abstractcabinet/books>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----